

0744

105

御参考迄茲ニ送付ス

當省情報部編纂ニ係ル「滿洲建國諸法令（翻譯）」一部何等

「滿洲建國諸法令」送付ノ件

陸軍大臣 荒木貞夫 殿

外務大臣伯爵内 田 康

報一普通合第二一九四號

昭和七年七月十九日

陸軍省 陸軍部 受領 陸軍省 陸軍部 受領 陸軍省 陸軍部 受領

七月廿二日

附屬物同封

陸軍省 7.7.22 586 軍事課



八月十九日



外務省

戊

0745

昭和七年六月

滿洲建國諸法令(翻譯)

外務省情報部

目次

第一、滿洲國建設ニ關スル宣言及通告

一、東北行政委員會宣言

二、滿洲國建國宣言

三、滿洲國執政宣言

四、對外通告

第二、滿洲國ノ基礎的諸法令

一、政府組織法

二、人權保障法

三、參議府官制

四、參議府會議規定

一

一

三

六

七

九

九

三

五

六

四、國務院官制	三〇
五、國務院各部官制	二四
六、監察院法	四二
七、法制局官制	四五
統計處官制	四七
八、資政局官制	四八
九、興安局官制	五〇
興安分省公署官制	五三
一〇、省公署官制	五七
一、暫時省公署ニ參事官ヲ置クノ件	六二
二、暫時従前ノ法令ヲ援用スルノ件	六二
三、暫行公文程式令	六二
四、貨幣法	六五
五、陸海軍條令	六八

0248

附録、滿洲國政府組織系統略表

一六、滿洲國々旗

六九

三

滿洲建國諸法令

第一、滿洲國建設ニ關スル諸宣言及對外通告

一、東北行政委員會宣言

東北事變發生以來瞬息ノ間ニ既ニ數月ヲ閱シ、人民望治ノ念ハ宛モ飢渴ニ食水ヲ求ムルカ如シ。茲ニ更始一新ノ時ニ方リ、復活蘇生ノ願愈々切ナルモノアリ、景惠等忝クモ推舉セラレテ省區ノ領袖ト成ル、舊ヲ革メ新ヲ洗フノ責ハ他ニ嫁ス能ハス、茲ニ大計ヲ諮ル可ク一堂ニ會セルカ、皆曰ク「鞏固ナル團體アルニアラサレハ以テ全局ヲ策ルニ足ラス、人民ノ公意ニ基クニアラサレハ以テ新猷ヲ建ツルニ足ラス」ト。茲ニ於テ東北四省、一特別區及蒙古各王侯ヲ連結シテ一機關ヲ組織シ、東北行政委員會ト命名シ、成立ト其ニ内外ニ通信ヲ發セリ。即チ此ヨリ黨國政府ト關係ヲ離脱シ東北省區ハ完全ニ獨立セリ。更ニ獨立ノ精神ヲ以テ行政ノ改善ヲ圖ラントス。

先ニ軍閥ハ苛政ヲ布キ誅求ヲ肆ニシ、爲ニ民衆ハ熱火深水ノ裡ニ在ルカ如ク、殆ト生命ヲ保持シ得サル状態ニシテ、鄉村ニ普キ痛苦ノ涙未タ乾カス、虎狼ニ等シキ爪牙ノ餘毒亦尙存ス。正ニ徹底的ニ根絶シ、再ヒ其枝節ヲシテ蔓延跋扈セシムヘカラス。古經ニ曰ク「民ヲ撫スルヲ后ト謂

ビ、民ヲ保スルヲ王ト謂フ。トアリ、四民蘇生シテ安息ヲ得ハ善政即チ成ラン。是本會第三ノ使
命ナリ。

近來民衆虐待ノ專政ハ其ノ利ヲ恣ニシ、怨恨茲ニ集中シテ社會道德ハ日ニ漸ク消亡セントス。社
會ハ即チ國家ノ基礎、道德ハ政治ノ本源ナリ。古書ニモ「忠信篤敬ナラハ蠻貊ノ邦ト雖モ行ハルヘ
シ」トアリ、排外政策ヲ持セス、茲ニ國際戰爭ヲヤメ、更ニ門戶解放機會均等主義ヲ以テ世界民
族ト共存共榮セン。コレ本會第二ノ使命ナリ。

内ヲ安ンシ外ニ和スルハ政治ノ根本ナリ。己ニ根本ノ鞏固ヲ謀ル、又宜シク枝幹ノ繁榮ヲ購スヘ
シ。即チ職業ヲ奨勵勸進シ農商ヲ發展セシメ、利ヲ生スル者ヲシテ日ニ多カラシメ、業ヲ失フ者
ヲシテ日ニ少カラシメハ、社會ノ利益均霑サレ、階級ノ鬭爭自ラ泯ヒ赤化行ハレス民生以テ期ス
ヘシ。是本會第三ノ使命ナリ。

景惠等ハ以上三大使命完成ノ爲、本會ニヨリ我東北各省區人民ノ爲ニ幸福ヲ求メントス。コレ又
我東亞各種族人民ノ爲ニ幸福ヲ求ムル所以ナリ。天日ハ上ニ在リテ此ノ宣言ヲ照鑒サル。邦人君子
夫レ興起シテ我等ヲ助ケヨ。

二月十八日

委員長 張景惠

委員 臧式毅

二、滿洲國建國宣言

- 委員 馬占山
- 委員 湯玉麟
- 委員 齊王
- 委員 熙洽
- 委員 凌陞

我滿蒙ノ地ハ邊陲ニ屬シ開國綿遠ナリ。之ヲ往稱ニ徵シ、分併稱フヘシ。地質膏腴ニシテ民風ハ
 樸茂ナリ。解放ヲ經ルニ及シテ生聚日ニ繁ク、物産豐饒、實ニ輿府トナス。然ルニ辛亥革命後其
 和民國成立シテ以來、東省ノ軍閥ハ中原變亂ノ機ニ乘シテ、政權ヲ攫取シ、三省ニ據リテ已ノ有
 トナシ、貅貔相繼キ、莖ニ將ニ廿年ナラントス。狼厲貪婪、騷沓淫佚ヲ逞ウシテ、民生ノ休戚ヲ
 顧ミルコトナク、唯々私利ヲコレ圖ル。

内ハ暴斂横征、恣ニ揮霍シ、其ノ結果幣制紊亂シ百業凋零スルニ至レリ。且又時ニ野心ヲ逞ウシ
 テ兵ヲ關内ニ進メ、地方ヲ擾害シ、民命ヲ傷殘ス。一再敗衄スルモ、尙俊悔セス。外ハ信義ヲ廢
 棄シテ、豫ヲ隣邦ニ開キ悉ク親仁ノ規ニ昧ク、専ラ排外ヲ事トシ、加フルニ警政修マラサルヲ以
 テ盜匪横行シテ四境ニ逼ク、到ル處擄掠、焚殺シテ村里ハ一空トナリ、老若ハ溝壑ニ陥リ、餓殍
 ハ途ニ載ス。我滿蒙ニ千萬ノ民衆カ命ヲコノ殘暴無法ナル區域ノ内ニ託スルハ死ヲ待ツノミ。

何ソヨク自ラ脱センヤ。今ヤ何ノ幸ソ手ヲ隣師ニ借リテ此ノ醜類ヲ驅リ、積年軍閥盤踞シ稅政萃聚セル地ヲ一旦ニシテ廓清ス。コレ天我滿蒙ノ民ニ蘇息ノ良機ヲ與ヘシナリ。吾人ノ當ニ奮然トシテ興起シ邁往勇進以テ更始ヲ圖ルヘキトコロナリ。思フニ内中原ヲ顧ミレハ、改革以來初メハ群雄角逐シテ頻年争戦シ近クハ一黨專横ニシテ國政ヲ把持ス。何ヲカ民生ト曰フ、實ニ之ヲ死ニ置クナリ。何ヲカ民權ト云フ、唯利ヲ專ラニスルナリ。何ヲカ民族ト云フ、唯黨アルヲ知ルノミ。既ニ天下ヲ公ト爲スト云ヒ、又黨ヲ以テ國ヲ治ムト云フ、矛盾乖謬ニシテ自ラ欺キ、人ヲ欺ク、種々ナル詐僞ハ窮詰スルニ勝ヘス。近來内訌屢々起リ、疆土分崩シ黨且自ラ存スル事能ハス、何ソ能ク國ヲ顧ミンヤ。茲ニ於テ赤匪ハ横行シ、災殺薦リニ起リ、海内ヲ毒雨シ、民怨沸騰ス。政體ノ不良ニ痛心疾首シテ彙書ニ於ケル政治清明ノ時代ヲ追思セサルハナキモ、唐虞三代ノ遠キハ幾及スベカラス。コレ我カ友邦ノトモニ目睹シ、同シク感慨ヲ深クスル所ナリ。ソレ二十年來試験ノ得ル所ヲ以テスレハ、其ノ結果一ニ茲ニ至ル。亦廢然トシテ返ルヘキナリ。然ルニ尙疾ヲ諱ミ、醫スルヲ忌ミ、ソノ舊惡ヲ怙ミ、民意ハ新ニ抑遏スヘカラサルニ詞ヲ籍ランカ、然ラハソノ往クトコロヲ恣ニスレハ共產ニ墜至シ、自ラ亡國滅種ノ地ニ陥ルニアラサレハ已マサルヘシ。今ニシテ我滿蒙民衆ハ天賦ノ機縁ニ於テ、萬惡ナル政治國家ノ範圍外ニ振拔シテ自ラ脱スルコト

ヲ求メサレハ、勢必ス皆溺レ、同シク盡クルニ至ランノミ。數ヶ月來屢々奉天、吉林、黑龍江、熱河、東省特別區、蒙古各旗盟ノ官紳士民ノ集合ヲ經テ、詳ニ研討ヲ加ヘタル結果、意思既ニ一致ス。惟ヘラク爲政ハ多言ヲ取ラス、唯實行如何ヲ見ルノミ。政體ハ何等ノ分テ無ク唯安居集樂ヲ主ト爲ス。滿蒙ハ舊特別ニ一國タリ。今ヤ時局ノ必要ニヨリ自ラ自立ヲ圖ラサル能ハスト。即チ三千萬民衆ノ意向ヲ以テ即日中華民國ト關係ヲ脫離シ、滿洲國ヲ創立スルコトヲ宣言シ、茲ニ特ニ建設綱要ヲ中外ニ昭布シ咸聞知セシム。竊ニ意フニ政ハ道ニ基キ道ハ天ニ基ク。新國家建設ノ旨ハ天ニ順ヒ民ヲ安ニスルコトヲ主トス。施政必ス眞正ノ民意ニ詢ヒ、私見ヲ存スルコトヲ容サス。凡ソ新國家ノ領土内ニ居住スルモノハ皆種族ノ岐視尊卑ノ分別ナシ。原有ノ漢族、滿族、蒙族及日本、朝鮮ノ各族ノ外、即チ其ノ他ノ國人ト雖長久ニ居住ヲ願フ者ハ又平等ノ待遇ヲ享クルコトヲ得。其ノ當ニ得ヘキ權利ヲ保障シ夫レヲシテ毫モ侵損アラシメス且極力往ノ日ノ黑暗ナル政治ヲ剷除シ、法律ノ改良ヲ行ヒ、地方自治ヲ厲行シ、廣ク人材ヲ收メテ賢俊ヲ登用シ、實業ヲ獎勵シ、金融ヲ統一シ、富源ヲ開發シ、生計ヲ維持シ、警兵ヲ訓練シ、匪禍ヲ肅清スヘシ。更ニ進ンテ教育ノ普及ヲ言ヘハ禮教ヲ崇ヒ王道主義ヲ實行シテ必ス境内一切ノ民族ヲシテ熙熙皞皞トシテ春臺ニ登ルカ如クナラシメ、東亞永久ノ榮光ヲ保チテ世界政治ノ模範トナサシ

トス。其ノ對外政策ハ信義ヲ尊重シテカメテ親睦ヲ求メ、凡ソ國際間ノ舊有ノ通例ハ謹ミテ遵守セサルコトナク、其ノ中華民國以前各國ト定ムル所ノ條約、債務ニシテ滿洲新國家領土内ニ屬スルモノハ皆國際慣例ニ照シ繼續ヲ承認シ、商業ヲ創興シ利源ヲ開拓スル爲我國家ニ投資ヲ希望スル者アラハ何國ニ論ナク一律ニ之ヲ歡迎シ、以テ門戸開放機會均等ノ實ヲ舉ケントス。以上宣布セル各節ハ新國家立國ノ主要ナル大綱タリ。新國家成立ノ日ヨリ即チ新ニ組織セル政府ニ於テソノ責任ヲ負ヒ、極メテ誠懇ナル表示ヲモツテ、三千萬民衆ノ前ニ向ヒ其ノ實行ヲ宣誓ス、天地照鑑ス、此ノ言ヲ渝フルコトナシ。

大同元年三月一日

滿洲國政府

三、滿洲國執政宣言

人類ハ須ラク道德ヲ重ンスヘキニ、種族ノ別アリ、即チ他ヲ抑制シ己ヲ賞揚ス、其ノ道德タルヤ甚タ薄シ。人類ハ須ラク仁愛ヲ重ンスヘキニ、國際間ノ争ヒアリ、即チ人ヲ損シ己ヲ利ス、其ノ仁愛タルヤ甚タ薄シ。今我國ヲ建立スルニ當リ道德、仁愛ヲ以テ主トナシ種族ノ別、國際間ノ争ヒヲ除去セハ、正ニ王道樂土ノ實現ヲ見ルヘシ。凡ソ我國民タルモノ努メテコレヲ勉勵セヨ。

大同元年三月九日

溥儀

四、對 外 通 告（滿洲國政府公報ニ據ル）

以書翰致啓上候。陳者、奉天、吉林、黑龍江、熱河各省、東省特別區、蒙古各旗盟等ハ一致奮起シテ獨立政府ヲ組織シ一九三二年三月一日ヲ以テ中華民國ヨリ完全ニ分離シ「滿洲國」ヲ建設致候本總長ハ茲ニ右ノ次第ヲ貴外務大臣ニ通告スルノ光榮ヲ有シ候。查スルニ舊軍閥ハ東北諸省ニ盤踞シテ人民ノ休戚ヲ顧ミルコトナク唯私利ノミ是圖リ内ハ苛斂誅求シテ人民ヲ塗炭ニ苦シメ外ハ信義ヲ破壞シテ各國ヲ見ルコト仇敵ノ如ク、加フルニ中原ニハ統一政府ナク群雄角逐セルカ爲、連年戰禍絶エヌ同胞ヲ殺戮シ民ハ其ノ生ニ安スルヲ得ス、故ニ我滿洲國人ハ此ノ舊軍閥覆滅ヲ機トシ一致協力シテ新國家ヲ建設致シタル次第ニ有之候。即チ我滿洲國政府ハ對内的ニハ法律制度ヲ完備シ以テ人民ノ安寧福利ノ増進ヲ期シ對外的ニハ左記諸原則ヲ遵守シ以テ邦交ノ親睦ヲ圖リ世界ノ平和ヲ維持セント希望スルモノニ御座候。

一、信義ヲ尊重シ事ノ大小ヲ問ハス睦誼親善ノ精神ニ基キテ事ニ處シ以テ國際平和ヲ維持増進ヲ圖ルヘシ。

二、國際信義ヲ尊重シ國際法規及慣例ヲ遵奉スルヘシ。

三、中華民國ノ諸外國ニ對シテ有スル條約上ノ義務ニシテ國際法及國際慣例ニ照シ新國家ノ繼

承スヘキモノハ當然之ヲ繼承シ且誠意ヲ以テ之ヲ履行スヘシ。

四、外國人ノ滿洲國領域内ニ於テ有スル既得ノ權利ヲ侵害スルコトナキハ勿論其ノ生命財産ヲ完全ニ保護スヘシ。

五、外國人ノ滿洲國ニ來住セントスル者ハ均シク之ヲ歡迎シ各民族ニハ平等公正ナル待遇ヲ與フヘシ。

六、列國トノ通商貿易ハ務メテ平易融洽ナラシメ以テ世界經濟ノ發展ニ貢獻スヘシ。

七、諸外國人ノ滿洲國ニ於ケル經濟活動ニ對シ門戸開放主義ヲ遵守スヘシ。

貴國政府カ以上ノ趣旨ヲ十分ニ諒解セラルルト共ニ滿洲國トノ間ニ正式外交關係ヲ設定セラレシコトヲ切ニ希望致候。敬具

大同元年三月十日

、國務大臣、閣下

滿洲國外交總長 謝 介石

(註) 右通譯ハ日、英、米、佛、獨、蘇、埃、白、丁、林、エストニア、伊、ラトビア、リツアニア、蘭、波斯、葡萄牙、チ
ッコスロバキアノ十七國ニ送付セラル

第二、滿洲國ノ基礎的諸法令

一、政府組織法

第一章 執 政

第一條 執政ハ滿洲國ヲ統治ス

第二條 執政ハ滿洲國ヲ代表ス

第三條 執政ハ全人民ニ對シ責任ヲ負フ

第四條 執政ハ全人民之ヲ推舉ス

第五條 執政ハ立法院ノ翼贊ニ依リ立法權ヲ行フ

第六條 執政ハ國務院ヲ統督シ行政權ヲ行フ

第七條 執政ハ法律ニ依リ法院ヲシテ司法權ヲ行ハシム

第八條 執政ハ公共ノ安寧福利ヲ維持増進シ又ハ法律ヲ執行スルタメ命令ヲ發シ又ハ發セシム

但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルヲ得ス

第九條 執政ハ公安ヲ維持シ又ハ非常ノ災害ヲ防遏スル爲立法院ヲ召集スルコトヲ得サルトキハ

參議府ノ同意ヲ得テ法律ト同一ノ效力アル緊急命令ヲ發スルコトヲ得

但シ此ノ敕令ハ次ノ會期ニ於テ立法院ニ報告スベシ

第十條 執政ハ官制ヲ定メ官吏ヲ任免シ及其ノ俸給ヲ定ム但シ本法其ノ他ノ法律ニヨリ特ニ定メ

ラレタルモノハ此ノ限リニ非ス

第十一條 執政ハ宣戰媾和及條約締結ノ權ヲ有ス

第十二條 執政ハ陸海空軍ヲ統率ス

第十三條 執政ハ大赦、特赦、減刑及復權ヲ命ス

第二章 參議府

第十四條 參議府ハ參議ヲ以テ之ヲ組織ス

第十五條 參議府ハ左ノ事項ニツキ執政ノ諮詢ヲ待ツテ其ノ意見ヲ提出ス

一 法律

二 敕令

三 豫算

四 列國交渉ノ條約、約束並執政ノ名ニ於テ行フ對外宣言

五 重要ナル官吏ノ任免

六 其ノ他ノ重要ナル國務

第十六條 參議府ハ重要ナル國務ニ關シ執政ニ意見ヲ提出スルコトヲ得

第三章 立 法 院

第十七條 立法院ノ組織ハ別ニ法律ノ定ムル所ニヨル

第十八條 總テ法律案及豫算案ハ立法院ノ翼賛ヲ經ルコトヲ要ス

第十九條 立法院ハ國務ニ關シ國務院ニ建議スルコトヲ得

第二十條 立法院ハ人民ノ請願ヲ受理スルコトヲ得

第二十一條 立法院ハ執政毎年之ヲ召集ス
常會ノ會期ハ一ヶ月トス但シ必要アル場合執政ハ之ヲ延長スルコトヲ得

第二十二條 立法院ハ總議員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス

第二十三條 立法院ノ議事ハ出席議員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ガル時ハ議長ノ決スル所

ニ依ル

第二十四條 立法院ノ會議ハ之ヲ公開ス、但シ國務院ノ要求又ハ立法院ノ決議ニ依リ秘密會議ト

スルコトヲ得

第三十五條 立法院ノ議決セル法律案及豫算案ハ執政之ヲ裁可シ公布施行セシム

立法院法律案又ハ豫算案ヲ否決セルトキハ執政ハ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ附シ尙改メザルトキ

ハ參議府ニ諮リテ其ノ可否ヲ探決ス

第二十六條 立法院議員ハ院內ニ於ケル言論及表決ニ關シ院外ニ於テ責任ヲ負フコトナシ

第四章 國務院

第二十七條 國務院ハ執政ノ命ヲ承ケ諸般ノ行政ヲ掌理ス

第二十八條 國務院ニ民政、外交、軍政、財務、實業、交通、司法ノ各部ヲ置ク

第二十九條 國務院ニ國務總理及各部總長ヲ置ク

第三十條 國務院總理及各部總長ハ何時タリトモ立法院會議ニ出席シ及發言スルコトヲ得、但

シ表決ニ加ハルコトヲ得ス

第三十一條 法律、教令及國務ニ關スル教書ハ國務總理之ニ副書ス

第五章 法院

第三十二條 法院ハ法律ニ依リ民事、刑事及訴狀ヲ審判ス、但シ行政訴訟其ノ他特別訴訟ニ關シテ

ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 法官ノ資格ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 法官ハ獨立シテ其ノ職務ヲ行フ

第三十五條 法官ハ刑事又ハ懲戒裁判ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラルルコトナシ、又其ノ意ニ反シテ停職、轉官、轉署、減俸セラルルコトナシ

第三十六條 法院ノ對審判決ハ之ヲ公開ス、但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スル恐レアルトキハ法律ニ依リ法院ノ決議ヲ以テ公開ヲ停止スルコトヲ得

第六章 監 察 院

第三十七條 監察院ハ監察及審計ヲ行フ、監察院ノ組織及職務ニ關シテハ法律ヲ以テコレヲ定ム

第三十八條 監察院ニ監察官及審計官ヲ置ク

第三十九條 監察官及審計官ハ刑事裁判若ハ懲戒處分ニ由ルニ非サレハ其ノ職ヲ免セラレルコトナシ又其ノ意ニ反シテ停職、轉官、減俸セラルルコトナシ

附 則

第四十條 本法ハ大同元年三月九日ヨリ施行ス

二、人權保障法

全人民ノ信任ニ依リ滿洲國統治ヲ行フ執政ハ戰時若ハ非常事變ノ際ヲ除クノ外左記各項ニ準據

シテ茲ニ人民ノ自由及權利ヲ保障シ並ニ其ノ義務ヲ定ムヘキコトヲ全人民ニ對シテ誓約ス

第一條 滿洲國人民ハ身體ノ自由ヲ侵害セラルルコトナシ、公ノ權力ニ依ル制限ハ法律ノ定ムル所ニヨル

第二條 滿洲國人民ハ財産權ヲ侵害セラルルコトナシ、公益上必要ニ依ル制限ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第三條 滿洲國人民ハ種族宗教ノ如何ヲ問ハス總テ國家ノ平等ナル保護ヲ享ク

第四條 滿洲國人民ハ法律ノ定ムル所ニ依リ國又ハ地方團體ノ公務ニ參與スルノ權利ヲ有ス

第五條 滿洲國人民ハ法令ノ定ムル所ニ依リ均シク官公吏ニ任セラルル權利ヲ有シ其ノ他ノ名譽職ニ就任スルノ義務ヲ負フ

第六條 滿洲國人民ハ法令ノ定ムル手續ニ從ヒ請願ヲナスコトヲ得

第七條 滿洲國人民ハ法律ニ定メタル法官ノ裁判ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第八條 滿洲國人民ハ行政官署ノ違法處分ニ依リ權利ヲ侵害セラレタル場合ニ於テハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ之カ救治ヲ請求スルコトヲ得

第九條 滿洲國人民ハ法令ニ依ルニ非サレハ如何ナル名義ニ於テモ課税、懲發、罰金ヲ命セラル

ルコトナシ

第十條 滿洲國人民ハ公益ニ反セザル限リ共同ノ組織ニ依リ其ノ經濟上ノ利益ヲ保護増進スルコトヲ得

トヲ得

第十二條 滿洲國人民ハ高利、暴利其ノ他一切ノ不當ナル經濟的壓迫ヨリ保護セラレ

第十三條 滿洲國人民ハ均シク國又ハ地方團體ノ公費ニ依ル各種ノ施設ヲ享有スル權利ヲ有ス

第十三條 本法ハ大同元年三月九日ヨリ施行ス

三、參議府官制

第一條 參議府ハ參議若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

第二條 參議府ニ議長及副議長各一人ヲ置キ參議中ヨリ執政之ヲ命ス

議長ハ參議府ノ事務ヲ統治シ參議府ヨリ發スル公文書ニ署名ス副議長ハ議長ヲ輔佐シ議長故障

アルトキハ此ノ職務ヲ行フ

議長副議長共ニ故障アルトキハ參議ノ一人命ヲ承ケ議長ノ職務ヲ代理ス

第三條 參議府ノ意見ハ參議府會議ノ決議ニ依リ之ヲ決ス

第四條 參議府會議ハ參議過半数出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス

第五條 參議府會議ノ議事ハ出席參議ノ多數決ニ依リ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
第六條 議長ハ會議ニ關シ必要アル場合ニハ國務總理、各部總長及監察院長又ハ其ノ代理者ヲ其
ノ會議ニ出席セシメ意見ヲ陳ヘシムルコトヲ得

第七條 議長ハ必要ニヨリ參議中ヨリ審査委員ヲ任命シ特別ノ事項ニ關シテ審査セシムルコトヲ得

第八條 參議府ニ秘書局長ヲ設ケ左ノ職員ヲ置ク

局長 (簡任)

秘書官 (簡任若ハ薦任)

屬官 (委任)

第九條 局長ハ議長ノ命ヲ承ケ常務ヲ管理ス、秘書官ハ局長ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル、屬官ハ上官
ノ指揮ヲ承ケ事務ニ従事ス

第十條 議長ハ秘書局長、秘書官ノ進退及賞罰ニツキ國務總理ヲ經テ執政ニ奏薦シ委任官以下ハ
之ヲ專行ス

第十一條 本官制ハ大同元年三月九日ヨリ施行ス

參議府會議規程

第一章 準備

第一條 參議府議長諮詢案件ヲ受ケタルトキハ秘書局長ニ命シテ之ヲ審査セシム

議長ハ必要ト認ムルトキハ秘書局長ニ命シテ審査報告書ヲ作成セシムヘシ

第二條 秘書局長ハ諮詢案件ヲ參議府會議ニ附議スルニ必要ナル一切ノ審査及準備ヲ整フヘシ

前項審査及準備ノ爲必要アルトキハ秘書局長ハ國務總理其ノ他關係各院及部局ニ對シ資料又ハ

説明書ノ提出ヲ要求スルコトヲ得

第三章 召集

第三條 參議府會議ハ議長之ヲ召集ス

召集ハ會議期日二日前迄ニ各參議ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス但シ緊急ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 議案ハ召集通知ト共ニ之ヲ送達スルコトヲ要ス但シ議長ニ於テ必要ナシト認メタルトキ

及緊急ノ場合ハ此ノ限リニ在ラス

第三章 構成

第五條 參議府會議ニハ參議府官制第六條及本規程ニ定ムルモノノ外入場ヲ許サス

第六條 議長ハ必要ト認メタルトキハ參議府會議ニ執政ノ臨席ヲ呈請スヘシ

第七條 秘書局長ハ議事録作成其ノ他ノ事務ヲ助ケシムル爲秘書官ヲシテ會議ニ列セシムルコトヲ得

一八

第四章 議事

第八條 會議ハ議長ニ於テ開會ヲ宜シ議長若ハ其ノ命ニ依リ秘書局長ニ於テ議案ヲ説明シ且審議上參考トナルヘキ事項ヲ報告スヘシ

豫メ審査報告書ヲ配布シタル場合ニ於テハ前項説明及報告ヲ省略スルコトヲ得

第九條 議長ハ各參議ヲシテ議案ニ付意見ノ開陳ヲ盡サシムヘシ但シ參議ハ議長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ發言スルコトヲ得ス議長ハ故ナクシテ參議及政府員ノ發言ヲ禁止若ハ發言ノ要求ニ對シ拒否スルコトヲ得ス

第十條 議長審査委員ヲ任命シタルトキハ審査期間ヲ限定スルコトヲ得

審査委員ハ審査報告書ヲ作成シ議長ニ提出スヘシ但シ緊急ノ場合ニ於テハ口頭ヲ以テ報告スルコトヲ得審査委員ヨリ報告書ノ提出アリタルトキハ議長ハ秘書局長ヲシテ其ノ會議ヲ開ク日ノ二日前迄ニ之ヲ各參議ニ送達セシムヘシ

第十一條 議長ハ附議既ニ盡キタリト認ムルトキハ裁決案ヲ定メ表決ニ附スヘシ但直ニ表決ニ附

スルコト不適當ト認ムル時ハ之ヲ延期スルコトヲ得

第十二條 議長ハ會議ノ意見決定シタルトキハ直ニ其ノ要旨ヲ議場ニ對シテ聲明スヘシ

第十三條 議長ハ其職務執行中ト雖モ自己ノ意見ヲ述フルコトヲ得

第十四條 豫定ノ期間内ニ議事終了セサル時ハ議長ハ會期ヲ延長シ若ハ之ヲ他日ニ延期スルコト

ヲ得

第十五條 參議ハ單獨ヲ以テ政府組織法第十六條ニ基ク意見ヲ議長ニ提出シ參議府會議ニ附議セ

シムルコトヲ要求スルヲ得

第十六條 前條ノ場合ニ於テ議長ハ本規則ノ手續ニ準シ之ヲ處理スヘシ

第五章 整理

第十七條 參議府ノ意見ハ裁決ノ結果ニ基キ秘書局長之ヲ起草シ議長ノ檢閲ヲ經タル上執政ニ提

出シ且其ノ寫ヲ國務總理ニ送付スヘシ

第十八條 會議ハ議事ハ其ノ要領ヲ筆記シ議長及秘書局長之ニ署名スヘシ

議事録ハ秘書局長ニ於テ之ヲ保管スヘシ

第六章 雜則

第十九條 參議府會議ノ議事ハ議長ノ命ニ依リ秘書局長ニ於テ之ヲ發表スルモノノ外一切公表スルコトヲ得ス

第二十條 秘書局長事故アルトキハ簡任秘書官其ノ職務ヲ代理ス

附 則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大同元年四月十五日公布)

四、國務院官制

第一條 國務總理ハ執政ノ命ヲ承ケ各部總長ヲ指揮監督シ、國家行政ノ機務ヲ處理シ其ノ責ニ任ス、國務總理故障アル時ハ總長ノ一人命ヲ承ケ其ノ事務ヲ代理ス

第二條 國務總理ハ其ノ職權又ハ特別ノ委任ニヨリ任免ヲ發スルコトヲ得

第三條 國務總理ハ必要ト認ムルトキハ各部總長ノ命令又ハ處分ヲ停止シ若ハ取消スコトヲ得

第四條 國務總理ハ部下官吏ヲ監督シ其ノ任免進退及賞罰ニ付執政ニ奏請シ、委任官以下ハ之ヲ

專行ス

第五條 行政事務ノ連絡統ニヲ圖リ以テ全局ノ平衡ヲ維持スル爲國務院會議ヲ設ク、國務院會議

ハ國務總理之ヲ主宰シ各部總長、總務長官、法制局長、公安局總長、資政局長或ハ其ノ代理者

ヲ以テ之ヲ組織ス

第六條 左ノ各件ハ國務院會議ヲ經ルコトヲ要ス

一 法律、敕令、軍令及豫算

二 外國條約及重要涉外案件

三 各部門ノ主管權限ノ爭議

四 豫算外ノ支出

五 其ノ他重要ナル國務

第七條 國務院各部總長ハ國務總理ノ命ヲ承ケ其ノ主管事務ヲ處理ス、各部ノ官制ハ別ニ之ヲ定ム

第八條 國務總理ハ部内ノ機密、人事、主計及需要ニ關スル事項ヲ直宰シ國務廳ヲ置キ之ヲ處理

セシム

第九條 國務廳ニ左ノ職員ヲ置ク

總務長官(特任)

秘書官(簡任若ハ薦任)

理事官(簡任)

技師(簡任若ハ薦任)

事務官(薦任)

副官(委任)

總務廳ニ次長(簡任)一人ヲ置クコトヲ得

第十條 總務長官ハ國務總理ノ命ヲ受ケ部下ノ官吏ヲ指揮監督シ廳務ヲ處理ス

第十一條 次長ハ總務長官ヲ輔佐シ總務長官故隙アルトキハ其ノ職務ヲ代行ス

秘書官ハ機密事項及特ニ命セラレタル事項ヲ掌ル

理事官及技正ハ總務長官ノ命ヲ受ケ所管ノ事務及技術ヲ掌ル

事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

副官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第十二條 總務廳ニ左ノ四處ヲ設ク

處ニ處長ヲ置キ理事官ヲ以テ之ニ充ツ

秘書處

人事處

主計處

需要處

第十三條 秘書處ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一 機密ニ屬スル事項

二 法律、教令、軍令、教書及院令ノ公布ニ關スル事項

三 官印ノ保管ニ關スル事項

四 公文書收發ニ關スル事項

五 刊行物ノ發行ニ關スル事項

六 會計及庶務ニ關スル事項

第十四條 人事處ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一 官吏ノ任免、進退及身分ニ關スル事項

二 官吏ノ紀律及賞罰ニ關スル事項

三 官吏ノ給與及待遇ニ關スル事項

四 議員選任ニ關スル事項

第十五條 主計處ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一 總括豫算及總括決算ニ關スル事項

二 特別會計ノ豫算及決算ニ關スル事項

三 國資ノ計畫及運用ニ關スル事項

四 國庫金ノ收支管理ニ關スル事項

五 收支ノ科目ニ關スル事項

第十六條 需要處ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一 營繕ニ關スル事項

二 用度ニ關スル事項

第十七條 各處ノ分課規程ハ總務長官之ヲ定ム

第十八條 本官制ハ大同元年三月九日ヨリ施行ス

五、國務院各部官制

第一章 通 則

第一條 國務院各部總長ハ國務總理ノ指揮監督ヲ承ケ其ノ主管事務ヲ掌理ス、主管ノ明瞭ナラサ

事務若ハ三部以上ニ關涉スル事項ハ國務院會議ニ提出シ其ノ主管ヲ定ム

第二條 國務院各部總長ハ其ノ主管事務ニ付法律、敕令、軍令及院令ノ制定、廢止及改正ヲ要スルモノアリト認ムルトキハ案ヲ具備シ國務總理ニ提出スヘシ

第三條 國務院各部總長ハ其ノ主管事務ニ付國務院會議ヲ要求スルコトヲ得

第四條 國務院各部總長ハ其ノ主管事務ニ付職權又ハ特別ノ委任ニ依リ部令ヲ發スルコトヲ得

第五條 國務院各部總長ハ其ノ主管事務ニ付各省長（興安各分省長ヲ除ク）首都警察廳長ニ指令又ハ訓令ヲ發スルコトヲ得

第六條 國務院各部總長ハ其ノ主管事務ニ付各省長（興安各分省長ヲ除ク）首都警察廳長ヲ指揮監督シ其ノ處分又ハ命令ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ之ヲ停止又ハ取消スコトヲ得、但シ重要ナル事項ハ國務總理ノ指揮ヲ承クルコトヲ要ス

第七條 國務院各部總長ハ部下ノ官吏ヲ指揮監督シ其ノ進退及賞罰ニ關シテハ國務總理ヲ經テ執政ニ奏薦スルコトヲ要シ委任官以下ハ之ヲ專行ス

第八條 國務院各部ニ次長（簡任）一人ヲ置クコトヲ得、次長ハ總長ヲ輔佐シ總長事故アルトキハ其ノ職務ヲ行フ

第九條 國務院各部ニ司ヲ置ク、司ニ司長ヲ置キ、理事官又ハ技正ヲ以テ之ニ充ツ各司ノ分課規程ハ總長之ヲ定ム

二六

第二章 民政部

第十條 民政部總長ハ地方行政、警察、土木、衛生及文教ニ關スル事項ヲ掌理シ省長（與安各分省長ヲ除ク）首都警察廳長ヲ監督ス

第十一條 民政部ニ左ノ六司ヲ置ク總務司、地方司、警務司、土木司、衛生司、文教司

第十二條 總務司ニ於テハ左ノ事務ヲ管掌ス

- 一 機密ニ屬スル事項
 - 二 官印ノ保管及文書ニ關スル事項
 - 三 人事ニ關スル事項
 - 四 會計及庶務ニ關スル事項
- 第十三條 地方司ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス
- 一 地方行政ニ關スル事項
 - 二 自治行政ニ關スル事項

三 公共組合ニ關スル事項

第十四條 警務司ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一 治安警察ニ關スル事項

二 行政警察ニ關スル事項

第十五條 土木司ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一 部直轄ノ土木工事ノ施行ニ關スル事項

二 地方及公共、土木工事ノ監督及補助ニ關スル事項

三 土地收用ニ關スル事項

第十六條 衛生司ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一 防疫、種痘及公衆衛生ニ關スル事項

二 保健及醫政ニ關スル事項

第十七條 文教司ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一 教育ニ關スル事項

二 學藝ニ關スル事項

三 宗教ニ關スル事項

四 禮俗ニ關スル事項

第十八條 民政部ニ左ノ職員ヲ置ク

秘書官 (簡任若ハ薦任)

理事官 (簡任)

督學官 (薦任)

技 正 (簡任若ハ薦任)

事務官 (薦任)

屬 官 (委任)

第十九條 秘書官ハ總長ノ命ヲ承ケ機密ノ事項及特ニ命セラレタル事務ヲ掌ル

理事官ハ總長ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

督學官ハ總長ノ命ヲ承ケ學校教育ノ監督ニ關スル事務ヲ掌ル

技正ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

屬官が上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ従事ス

第三章 外 交 部

第二十條 外交部總長ハ在外使節及領事ヲ指揮監督シ國際交渉、通商及在外人民保護ニ關スル事務ヲ掌理ス

第二十一條 外交部ニ左ノ三司ヲ置ク

總務司

通商司

政務司

第三十二條 總務司ニ於テ左ノ事項ヲ管掌ス

一 機密ニ關スル事項

二 官印ノ保管及文書ニ關スル事項

三 人事ニ關スル事項

四 會計及庶務ニ關スル事項

第三十三條 通商司ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一 通商ニ關スル事項

二 外國經濟事情ノ調査ニ關スル事項

三 在外人民ノ保護ニ關スル事項

四 領事ニ關スル事項

第二十四條 政務司ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一 條約ニ關スル事項

二 國際會議ニ關スル事項

三 情報ニ關スル事項

四 在外使節ニ關スル事項

第二十五條 外交部ニ左ノ職員ヲ置ク

秘書官 (簡任若ハ薦任)

理事官 (簡任)

翻譯官 (薦任)

事務官 (薦任)

副官 (委任)

第三十六條 秘書官ハ總長ノ命ヲ承ケ機密ノ事項及特ニ命セラレタル事務ヲ掌ル

理事官ハ總長ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

翻譯官ハ上官ノ命ヲ承ケ翻譯ヲ掌ル

事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

副官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ従事ス

第四章 軍政部

第二十七條 軍政部總長ハ軍政ヲ管理シ用兵ニ關スル事項ヲ掌理ス

第二十八條 軍政部ニ左ノ二司ヲ置ク

參謀司

軍需司

第二十九條 參謀司ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一 總務ニ關スル事項

二 用兵ニ關スル事項

三 軍ノ訓練ニ關スル事項

四 軍ノ編成及徵募ニ關スル事項

五 醫務ニ關スル事項

六 法務ニ關スル事項

第三十條 軍需司ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一 兵器ニ關スル事項

二 軍需品ニ關スル事項

第三十一條 軍政部ニ置クヘキ職員ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

第五章 財政部

第三十二條 財政部總長ハ稅務、專賣、貨幣、金融統制及國有財産ニ關スル事項ヲ掌理ス

第三十三條 財政部ニ左ノ三司ヲ置ク

總務司

稅務司

理財司

第三十四條 總務司ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

- 一 機密ニ屬スル事項
- 二 官印ノ保管及文書ニ關スル事項
- 三 人事ニ關スル事項
- 四 會計及庶務ニ關スル事項

第三十五條 稅務司ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

- 一 國稅ノ賦課徵收ニ關スル事項
- 二 稅務行政ニ關スル事項
- 三 關稅ノ賦課徵收ニ關スル事項
- 四 關稅行政ニ關スル事項

第三十六條 理財司ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

- 一 貨幣ニ關スル事項
- 二 金融統制ニ關スル事項
- 三 金融機關ノ監督ニ關スル事項

四 國有財産ノ管理ニ關スル事項

第三十七條 財政部ニ左ノ職員ヲ置ク

秘書官 (簡任若ハ薦任)

理事官 (簡任)

技 正 (簡任若ハ薦任)

事務官 (薦任)

副官 (委任)

第三十八條 秘書官ハ總長ノ命ヲ承ケ機密ノ事項及特ニ命セラレタル事項ヲ掌ル

理事官ハ總長ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

技正ハ總長ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

副官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ従事ス

第六章 實 業 部

第三十九條 實業部總長ハ農業、林業、畜産業、礦業、商工業其ノ他一般實業ニ關スル事項ヲ處理ス

第四十條 實業部ニ左ノ三司ヲ置ク

總務司

農礦司

工商司

第四十一條 總務司ニ於テ左ノ事項ヲ管掌ス

一 機密ニ屬スル事項

二 官印ノ保管及文書ニ關スル事項

三 人事ニ關スル事項

四 會計及庶務ニ關スル事項

第四十二條 農礦司ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一 農業及副業ニ關スル事項

二 林業及造林ニ關スル事項

三 畜産ニ關スル事項

四 水産ニ關スル事項

五 礦山及地質ニ關スル事項

第四十三條 工商司ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一 商事及貿易ニ關スル事項

二 工業ニ關スル事項

三 度量衡ニ關スル事項

第四十四條 實業部ニ左ノ職員ヲ置ク

秘書官 (簡任若ハ薦任)

理事官 (簡任)

技正 (簡任若ハ薦任)

事務官 (薦任)

副官 (委任)

第四十五條 秘書官ハ總長ノ命ヲ承ケ機密ノ事務及特ニ命セラレタル事務ヲ掌ル

理事官ハ總長ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

技正ハ總長ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル
周官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ従事ス

第七章 交通部

第四十六條 交通部總長ハ鐵道、郵便、電信、電話、航空及水運其ノ他一般交通ニ關スル事項ヲ處理ス

第四十七條 交通部ニ左ノ四司ヲ置ク

總務司

鐵道司

郵務司

水運司

第四十八條 總務司ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一 機密ニ關スル事項

二 官印ノ保管及文書ニ關スル事項

三 人事ニ關スル事項

四 航空ノ取締ニ關スル事項

五 會計及庶務ニ關スル事項

第四十九條 鐵道司ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一 鐵道及其ノ附帶業務ノ管理ニ關スル事項

二 陸運ノ監督ニ關スル事項

第五十條 郵務司ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一 郵便ニ關スル事項

二 電信及電話ニ關スル事項

第五十一條 水運司ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一 水運ニ關スル事項

二 航路標識ニ關スル事項

三 船舶及船員ノ監督ニ關スル事項

第五十二條 交通部ニ左ノ職員ヲ從ク

秘書官 (前任若ハ新任)

理事官 (前任)

技 正 (簡任若ハ薦任)

事務官 (薦任)

副官 (委任)

第五十三條 秘書官ハ總長ノ命ヲ承ケ機密ノ事務及特ニ命セラレタル事務ヲ掌ル

理事官ハ總長ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

技正ハ總長ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

副官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ従事ス

第八章 司 法 部

第五十四條 司法部總長ハ法院及檢察廳ヲ監督シ民事、刑事、非訟事件及其ノ他司法行政ニ關ス

ル事項ヲ處理ス

第五十五條 司法部ニ左ノ三司ヲ置ク

總 務 司

法 務 司

行刑司

第五十六條 總務司ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一 機密ニ屬スル事項

二 官印ノ保管及文書ニ關スル事項

三 人事ニ關スル事項

四 會計及庶務ニ關スル事項

第五十七條 法務司ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一 法院ノ設置廢止及管轄區域ニ關スル事項

二 民事、刑事、非訟事件及裁判事務ニ關スル事項

三 檢察事務ニ關スル事項

四 戶籍登記、供託、調停及公證ニ關スル事項

第五十八條 行刑司ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一 刑ノ執行ニ關スル事項

二 監獄ニ關スル事項

三 少年ノ矯正及免囚保護ニ關スル事項

四 恩赦ニ關スル事項

第五十九條 司法部ニ左ノ職員ヲ置ク

秘書官 (前任若ハ薦任)

理事官 (簡任)

事務官 (薦任)

副官 (委任)

第六十條 秘書官ハ總長ノ命ヲ承ケ機密ノ事務及特ニ命セラレタル事務ヲ掌ル

理事官ハ總長ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

副官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ従事ス

第六十一條 本官制ハ大同三年三月九日ヨリ施行ス

六、監 察 院 法

第一條 監察院ハ執政ニ直隸シ、國務院ニ對シ獨立ノ地位ヲ有ス

第三條 監察院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長 (特任)

監察官 (簡任若ハ薦任)

審計官 (簡任若ハ薦任)

秘書官 (簡任若ハ薦任)

事務官 (薦任)

刷官 (委任)

第三條 院長ハ部下ノ官吏ヲ指揮監督シ院務ヲ總理ス、院長事故アルトキハ部長ノ一人命ヲ承ケ其ノ職務ヲ代理ス

第四條 院長ハ薦任官以上ノ進退及賞罰ニ關シテハ國務總理ヲ經テ執政ニ奏薦シ、委任官以下ハ之ヲ專行ス

第五條 監察官ハ院長ノ命ヲ承ケ監察ヲ掌ル

審計官ハ院長ノ命ヲ承ケ審計ヲ掌ル

秘書官ハ院長ノ命ヲ承ケ機密事項及特ニ命セラレタル事項ヲ掌ル

事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

副官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ従事ス

第六條 監察院ニ總務處及左ノ二部ヲ置ク

監察部

審計部

第七條 總務處ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一 機密ニ屬スル事項

二 官印ノ保管ニ關スル事項

三 人事ニ關スル事項

四 文書及統計ニ關スル事項

五 會計及庶務ニ關スル事項

第八條 總務處ニ處長ヲ置ク、秘書官ヲ以テ之ニ充ツ、處長ハ院長ノ命ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ指揮

監督シ所管ノ事務ヲ管理ス

第九條 監察部ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス但シ審計部ノ所管ニ屬スルモノヲ除ク

一 各官廳ノ違法若クハ不當ノ處分ニ關スル監察
 二 官吏ノ非違ニ對スル監察

第十條 監察部ニ部長ヲ置キ、監察官ヲ以テ之ニ充ツ

部長ハ院長ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理ス

第十一條 審計部ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

- 一 各官廳ノ豫算執行ノ監督
- 二 各官廳ノ收支及決算ノ検査
- 三 各官廳ノ金錢、有價證券及物品ノ検査
- 四 各官廳ノ爲銀行ノ取扱フ現金及有價證券ノ出納ニ關スル検査
- 五 法令ニ依リ特ニ定メラレタル公私團體ノ會計検査
- 六 官吏ノ會計上ノ非違ニ對スル監察

第十二條 審計部ニ部長ヲ置ク、審計官ヲ以テ之ニ充ツ

部長ハ院長ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理ス

第十三條 監察報告書及審計報告書ハ部會議ニ於テ之ヲ確定シ監察院長ヨリ執政ニ提出ス

第十四條 監察若クハ審計ノ結果ニ依リ行政官廳ノ違法若ハ不當ノ處分ニシテ改正ヲ要スルモノト認メラレタルトキハ監察院長ハ各部會議ノ決議ニ依リ國務總理ニ對シ意見書ヲ送附シ及其ノ處置ニ付國務總理ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第十五條 審計ノ結果ニ依リ當該官吏ニシテ賠償ノ責アリト認メタルトキハ監察院長ハ審計部會議ノ決議ニ依リ其ノ責ヲ判定シ國務總理ニ移牒シテ之ヲ執行セシム

第十六條 監察若クハ審計ノ結果ニ依リ官吏ノ懲戒ヲ要スル者アリト認メラレタルトキハ監察院長ハ各部會議ノ決議ニ依リ官吏懲戒委員會ニ對シ懲戒ヲ要求スルコトヲ得

第十七條 監察院長ハ隨時審計及監察ノ成績ニ基キ執政ニ意見ヲ上申シ法律若ハ行政上ノ改正ヲ必要トスベキ事項アリト認メタルトキハ併セテ上申スルコトヲ得

第十八條 監察院ノ職務執行ニ關スル細則ハ敕令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 本法ハ大同元年三月九日ヨリ施行ス

七、法制局官制

第二條 法制局ハ國務院ニ隸屬シ左ノ事項ヲ管掌ス

一 法律案、敕令案、軍令案及院令案ノ起草及審査